

仕候也

年月日

〔本人〕

苗字 名印

右何某入學相願候ニ付テハ本人身分ニ關スル儀一切引受候也

右父カ伯叔父カ

年月日

証人 苗字 名印

千葉女子師範學校御中

前書ノ通相違無之候也

千葉縣大小區戶長

千葉縣

年月日

苗字 名印

履歷書式

千葉縣大小區國郡村町番地

士族カ
平民カ

某女姉妹

生所何國何郡村町

苗字 名

何年何ヶ月
何年何月生

何國何郡何村何某ニ從ヒ何年何月ヨリ何年何月迄都合何ヶ年何學科修業第何番中學區

内第何番何小學ニ入り、上下等教科第何級卒業ノ証書ヲ受ケ

右ノ通相違無之候也

年月日

苗字 名印

第五條 証人ハ本人ノ戸主若シクハ父兄伯叔父ノ内タルベシ

第六條 學費ハ一ヶ月金三圓ト定メ本校ヨリ之ヲ給スベシ

但本文學費ノ内食費入浴費理髮費ハ本校ヨ

三 千葉縣

リ直ニ賄人等へ渡シ、筆墨紙等雜費ハ本人へ渡スベシ

第七條 臥具机腰掛燈器食器等ハ之ヲ貸渡シ衣服其外手道具等ハ生徒自ラ之ヲ辨スベシ

第八條 學費ハ日割ヲ以テ給ス病氣或ハ己ムヲ得サル事故アリテ歸郷或ハ下宿スルモノハ當日ヨリ給セス歸校ノ日ヨリ之ヲ給ス

但冬夏休業中ハ此限ニアラス病氣ニ因テ病院ニ入ルモノモ亦此限ニアラスト雖モ病三十日ヲ過キ尙癒サルモノハ給セス

第九條 事故アリテ退學ヲ命セシモノハ保証人
ヲシテ在學中ノ學費ヲ辨償セシム

但疾病ニヨリ退學ヲ命セシモノハ此限ニア
ラス

第十條 生徒在學ノ期ヲ三年トシ教科ヲ六級ニ
分テ每級六ヶ月ノ課程ニシテ一日五時間ノ課
業トス

第十一條 初テ入學スルモノハ第六級生トシ一期
ヲ終フルコトニ試業ヲ行ヒ昇級セシム

第十二條 在學中半途退學スルヲ許サス

四 千葉縣

第十三條 在學中不行狀ノ事アル歟疾病ニ罹リ成
業ノ目的ナキモノハ退學セシムヘシ

第十四條 全科卒業ノ上大試験ヲ行ヒ其學力ト平
素ノ勤惰行狀トヲ判定シ左式ノ一二三等卒業
證書ヲ與フベシ

第十五條 卒業ノ上進退出處各自ノ意志ニ任スベ
シ

證書式 花紋輪廓付
但紅等綠等藍等ノ三色ヲ以テ區別ス

第 幾 號	
校 印	千葉縣士族 平民カ
某女姉妹 苗字名	明治何年何月 何年何ヶ月
小學師範學科卒業 候事	
千葉女子師範學校	
年月日	

千葉女子師範學校定制

第二 教則

第六級

讀物

日本地誌畧

國史攬要

小學教科書

小學入門

小學讀本

算術

加減乘除

四則應用

作文

書讀文

習字

楷書

裁縫

體操

第五級

讀物

國史攬要

輿地誌畧

小學教科書

初學地理書

算術

分數

小數

作文

書牘文

習字

楷書

裁縫

體操

第四級

讀物

輿地誌畧

ハイレ氏

萬國史

小學教科書

日本畧史

算術

諸等

正轉比例

合率

作文

書讀文

習字

行書

書學

西洋書式

小學書學書

八

千葉縣

裁縫

體操

第三級

讀物

パーレ氏

萬國史

修身論

物理階梯

小學教科書

萬國史畧

勤懲雜話

算術

連鎖

差分

和較

利息

損益

作文

記事文

習字

行書

九
千葉縣

書學

西洋書式

圖法楷梯

裁縫

體操

第二級

讀物

漢史一班

經濟書家經濟書適當ノ書編纂マテ

小學教科書

經濟要旨	智氏家訓	陸軍日本畧史	家事儉約訓	算術	開平開立	級數	方級數	習字	草書	作文	記事文	書學	西洋畫式	圖法階梯	裁縫	授業法	體操	第一級	讀物
十										千葉藤									

教導說

化學篇

初學人身病理

小學教科書

具氏博物學

算術

對數

幾何學

作文

雜事文

習字

草書

楷行草細字速寫

畫學

西洋畫式

西畫指南ヲ用ヒテ

畫學ノ大意ヲ知ラシム

裁縫

實地授業

諸科温習

體操

十二

千葉縣

千葉女子師範學校定制

第三 教場規則

第一條 授業時間ハ午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

但夏季休業ノ前後各十五日間ハ午前第七時ヨリ第十二時迄タルヘシ

第二條 就課放課ハ録ヲ以テ報スベシ

第三條 毎時間休憩ハ十分ヲ限ル可シ

第四條 授業中教師ノ許可ナクシテ席ヲ離ル可ラス

第五條 席次ヲ亂ル可ラス

第六條 吹煙及ヒ談話ス可ラス

第七條 隈リニ異見ヲ述ブ可ラス

第八條 教師ノ許可ナクシテ教場装置ノ書器ヲ使用ス可ラス

第九條 授業時間ノ外監事ノ許可ナクシテ教場ニ入ル可ラス

第十條 生徒ノ座位ハ學力ノ優劣及ヒ行狀ニ照シテ其前後ヲ定ム可シ

年中休業日

- 一日曜日
- 一土曜日午後
- 一孝明天皇祭日
一月三十日
- 一紀元節
二月十一日
- 一神武天皇祭日
四月三日
- 一夏季休業
自七月二十一日
至八月二十日
- 一神宮神嘗祭
九月十七日
- 一天長節
十一月三日
- 一新嘗祭
十一月二十三日

十四

千葉縣

一冬季休業

自十二月二十六日
至一月七日

但臨時ノ休業ハ其時々揭示スベシ

千葉女子師範學校定制

第四 會則

第一條 同學ノ者ハ親睦協和偕ニ學業ニ勵精シ操履玷ルコナキヲ要ス

第二條 席次ハ科業ノ等級ニ依ル同級ノ者ハ教場所定ノ順序ニ從フヘシ

第三條 三月一日ヨリ五月三十一日迄九月一日ヨリ十一月三十日迄ハ午前第六時六月一日ヨリ八月三十一日迄ハ午前第五時十二月一日ヨリ二月二十八日迄ハ午前第七時ヲ以テ晨起ノ

十五 千葉縣

時限トシ夜寢ノ時限ハ總テ午後第十時タルベシ

第四條 晨起後ハ直チニ衾褥ヲ收メ室内ヲ掃除シ極メテ清潔ナルヲ要ス

第五條 夜寢時限ニ至レハ直チニ燈火ヲ滅シ寢ニ就クベシ

第六條 點燈後音讀ヲ禁ス

第七條 書籍器具衣服等ハ常ニ整頓シ亂雜ナルコアル可ラス

第八條 他人ノ書籍器具等ヲ毀毀スル者ハ其原

價或ハ修復ノ代價ヲ償ハシムベシ

第九條 汚穢ハ健康ノ大害ナレハ居室身体衣服等總テ清潔ニナスベシ

第十條 身体ヲ運動スルハ健康ヲ保ツ爲メ切要ナルヲ以テ体操時間並ニ休憩時間ハ勉メテ身体ノ運動ヲ爲スベシ

第十一條 小説稗史ヲ讀ミ無用ノ書畫玩弄物等ヲ取扱フ可ラス

第十二條 妄リニ他人ノ室ニ入り無益ノ雜話ヲナス可ラス

十六

千葉縣

第十三條 生徒互ニ金錢衣服等ノ貸借ヲナス可ラス

第十四條 書籍ヲ始メ傘履等ニ至ルマテ猥リニ他人ノ品ヲ用フ可ラス

第十五條 病氣ノ外室内ニテ喫飯ス可ラス

第十六條 外人來リ接見セントスルハ監事ノ許可ヲ受ケ應接所ニ於テ接見スベシ室内ニ延グコヲ禁ス尤病氣ニテ應接所ニ出ル能ハザルハ監事ノ許可ヲ受ケ病室ニ於テ應接スルヲ得ベシ

第十七條 毎日曜日ハ午前第八時ヨリ門外散步ヲ許スベシ

但歸舍時限ハ四月ヨリ九月迄ハ午後第七時十月ヨリ三月迄ハ午後第六時トス

第十八條 不得止情故アリテ外出セント欲スルモノハ其事由ヲ詳記シタル保証人ノ証書ヲ以テ監事ノ許可ヲ受クベシ

但此保証人ハ親戚若クハ親戚ニ準スヘキ男子ニシテ保証人タルニ適當スルト認メタル者ニ限ルベシ

第十九條 出入ハ必ス門札ヲ所持スベシ

第二十條 故ナク外宿ス可ラス

第二一條 諸興行ノ席ニ赴ク可ラス

第二二條 父母病氣其他餘儀ナキ情故アリテ歸省ヲ願フキハ其區正副戸長ノ内ノ添書ヲ以テ申出ツベシ

但父母卒病等差掛リタル急事ニテ其手續ヲナスノ暇ナキキハ添書之レナクモ其報知ノ信書或ハ使介ノ演舌ヲ証トシ特別ニ之レヲ許可スルコトアルベシ

第廿三條 病氣等ニテ缺課スルモノハ書面ヲ以テ監事ニ届ケ出ツベシ

第廿四條 病氣ノ節ハ必ス病室ニ就キ醫師ノ診察ヲ受テ療養スベシ尤藥價ハ自費タルベシ

第廿五條 傳染病又ハ重病ニ罹ルモノハ醫師診察ノ上ニテ病院ニ入ルベシ若シ容易ニ全快シ難キ見込ノ者ハ歸宅療養ヲ許スコアルベシ

第廿六條 小使ヲ使役スル言語等總テ丁寧ニスベシ且私事ヲ以テ門外ニ出タスヲ禁ス

第廿七條 小使ノ過失ヲ認ルキハ詳ニ監事ニ報

知スベシ

第廿八條 小使ニ私ニ帶錢ヲ與フ可ラス

第廿九條 食案ニ就グキハ順序ヲ亂ル可ラス且食事中不行儀ノ事アル可ラス

第三十條 食事時間ニ後レ器飯ス可ラス

第卅一條 入浴時間ハ午後第三時ヨリ同六時迄トス

第卅二條 高度ノ湯ハ身体ニ害アレハ之レヲ慎ムベシ

第百九拾七號

區長
戶長

東伏見宮御儀統獵期限中警視局免許鑑札ヲ以當
管下へ折々遊獵相成候段今般官内省ヨリ告越候
條爲心得此段相達候事

明治十年十月四日

千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

千葉縣

乙第貳百九拾八號

區長
戶長

虎列刺病假病院於入療中之者へ看護致度向者
其親屬之内尤身体健全ナル者一人ニ限リ厚ク豫
防差加へ候上願旨聞届候條虎列刺病豫防事務扱
所へ願出可申若シ該所遠隔之地者警察署或ハ分
署へ可願出旨一般人民へ無洩至急可申達置此旨
相違候事

但本文願書ニハ其町村吏連署之上差出サセ可

申事

明治十年十月四日

千葉縣令柴原和代理
千葉縣少書記官岩佐爲春

乙第貳百九拾九號

區長
戶長

今般西南賊徒平定ニ付テハ本年六月縣廳乙第貳百
八號達ハ相慶候條此致相達候事

千葉縣令柴原和代理

明治十年十月五日 千葉縣少書記官岩佐爲春